

地域研究年報

Annals of Human and Regional Geography

第35号

2013年 2月

筑波大学人文地理学・地誌学研究会

Association of Human and Regional Geography, University of Tsukuba

平成24年度筑波大学社会貢献プロジェクト
「フィールドワークの成果を活かした大学連携事業「学輪IIDA」との連携」
(研究代表者：呉羽正昭)

序

地域研究年報第35号は、2011年10月23日（日）から29日（土）、および2012年5月27日（日）から6月2日（土）にかけて実施した筑波大学大学院地誌学野外実験の成果を特集したものである。この野外実験には24名（2011年）、32名（2012年）の大学院生が参加し、4名の教員で指導に当たった。2012年3月に手塚 章教授が退職されたため、呉羽正昭、兼子 純および山下亜紀郎の3名となった。こうした事情や昨今の大学院生数の増加を考慮して、われわれのOB・OGである藤田和史氏（和歌山大学）、新名阿津子氏（鳥取環境大学）、さらには駒木伸比古氏（愛知大学）に現地での指導協力をお願いした。大学院生は、さまざまなテーマに関して調査を実施した。ただし、自動車を保有する大学院生が大きく減少したために、教員が大学院生の調査先へ送り迎えをしなければならず、その分調査指導が手薄になってしまったことは反省点であった。しかし、夕食後のゼミでは、調査方法、結果の報告、まとめ方に関して熱心な議論が深夜まで続いた。本号に収録された論文はこうした調査成果をまとめたものである。ただし、これ以外にも数名の大学院生が、今回の調査結果を基礎として学会誌等への投稿論文を準備している。

今回、地誌学野外実験の調査地域として下伊那地域を選んだ。従来、地誌学野外実験では、長野県内の松本盆地、諏訪盆地、長野盆地などを調査対象地域としてきた。伊那盆地を調査対象とするのは初めての試みである。伊那盆地の南部、飯田市を中心とする下伊那地域は、長野県の最南部に位置し、比較的温暖な気候、田切地形の卓越、豊富な森林、愛知県や静岡県との結びつきといった点で長野県内では特異な性格を有する。もちろん、下伊那地域内部においても、天竜川の右岸・左岸（竜西・竜東）、中心と周辺といった地域差が存在する。とくに、天竜川とその支流や水路が織りなす水系網は、下伊那地域の地域性を捉える上で不可欠な要素であろう。

上記のさまざまな地域条件のもとで、下伊那地域を舞台とする人びとの暮らしがなされてきた。「坂のまち」として特徴付けられる飯田市の中心部では、商業機能の衰退がややみられるものの、さまざまなスケールで再開発もなされ活気のある中心部として、事業所のみならず、住民や観光客を惹きつけている。蚕糸業などから発生して変容しつつある工業も、現在では伝統的な水引製造や染織業、機械金属工業にみられる企業間ネットワークの構築など、多様な側面を示している。天竜川沿岸では水田農業が展開し続ける傾向にあるが、都市化・高齢化の影響が景観的にも出現している。一方、段丘上では第二次世界大戦後に発達した果樹農業がさかんで、最近では市田柿向けのかき栽培が拡大している。天竜川から東に入ると山村が展開し、高齢化に直面しつつも、ワーキングホリデー等の活用で活気もみられる。南アルプスに沿う遠山谷では、独特の文化や農村景観で多くの観光客にアピールしている。飯田市を中心とする今回の調査地域は、こうした多様な性格が凝縮された地域であることがわれわれの調査結果から再認識できた。

また飯田市の行政施策という面では、たとえば日本の農村空間におけるワーキングホリデー制度確立について先駆的役割を演じてきたことは周知の通りである。また近年では、四年制大学が存在しないことを逆にとり、日本各地から多数の大学教員や学生を飯田に呼び込み、それによって知のネットワークを構築しようとする大学連携会議「学輪IIDA」が設立された。今回のわれわれの調査も、そのネットワーク内の一つの結節点となるものであろう。こうした政策もまた下伊那地域の特性と大いに関連している。

日本という国土の中で下伊那地域が置かれる位置を考えると、その相対位置、すなわち、東京と大阪

のほぼ中間に位置し、それぞれから4時間程度要することが特異である。ただし、2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線によって、とくに飯田市の位置条件は大きく変化するであろう。しかし、それが下伊那地域にどのような影響を与えるのかは、今後の大きな課題と考えられる。

本報告書は、さまざまな側面からみた飯田市をはじめする下伊那地域の地域性を明らかにしようとしたものである。本冊子の内容が、飯田市や下伊那地域の人々にとって何らかの役に立つことができれば、地域研究の一端をになうものとして望外の幸せである。

現地調査に際しては、飯田市長牧野光朗氏、同市企画部秘書課の申原一保氏および同市企画部企画課の上沼昭彦氏をはじめする関係部署の方々に、資料の提供や閲覧の便宜をはかっていただいた。また、飯田市立図書館、下伊那地方事務所、南信州観光公社、飯田商工会議所、JAみなみ信州など数多くの関係機関の方々からも貴重なご意見をいただいた。さらに、聞き取り調査やアンケート調査のために訪れた事業所や農家、工場、商店、宿泊施設、また多くの市民の方々に親切に対応していただいた。加えて、阿智村の昼神温泉に関係する諸機関等、調査滞在中の宿泊拠点とした砂払温泉にもさまざまな便宜を図っていただいた。以上、記して厚くお礼申し上げる次第である。

2013年2月

呉羽正昭

目 次

| | | |
|------------------------------------|-------------|-----|
| 序 | 呉羽 正昭 | |
| 飯田市中心市街地における商業機能の変容 | 橋本 暁子 | 1 |
| | 鈴木 将也 | |
| | 周 雯婷 | |
| | 石坂 愛 | |
| | 金 延景 | |
| | 渡邊 瑛季 | |
| 飯田市中心市街地における再開発事業の展開と地域活性化 | 福田 綾 | 27 |
| | 大谷万里絵 | |
| | 今井 剛志 | |
| | 金 錦 | |
| | 橋爪 孝介 | |
| | 村上 翔太 | |
| 飯田・下伊那地域における染織業の変遷と技術的基盤 | 遠藤貴美子 | 45 |
| | 卯田 卓矢 | |
| | 神 文也 | |
| | 盧 柳松 | |
| 飯田市における機械金属工業による企業間ネットワークの構築 | 金子 愛 | 63 |
| | 樋上 龍矢 | |
| 広告媒体としてのローカル新聞の存立形態 | | |
| - 長野県飯田市の事例から - | 福井 一喜 | 79 |
| 飯田市鼎切石地区における小規模農家の存続形態 | 栗林 賢 | 91 |
| | 鈴木 春香 | |
| | 山本 敏貴 | |
| | 劉 玲 | |
| 飯田市松尾地区における伝統的井水と大規模農業用水路の役割 | 中尾 浩子 | 105 |
| | 孫 鳴澤 | |
| | 細谷 美紀 | |
| | 山下亜紀郎 | |

| | | |
|---|-------------------------|-----|
| 飯田市における都市農村交流の展開 －ワーキングホリデー飯田を事例として－ | 池田真利子 永山いちい 大石 貴之 | 121 |
| 飯田市龍江地区における観光農園の展開と経営特性 | 全 志英 | 147 |
| 飯田市における獣害対策の諸問題 －駆除死体の処理方法に着目して－ | 橋本 操 碓井 達哉 劉 珂 | 163 |
| 農山村地域における集落機能の存続基盤 －飯田市下栗地区を事例に－ | 磯野 巧 蘇 磊 小室 讓 | 183 |
| 長野県阿智村昼神温泉の地域活性化戦略とその課題 | 木村 昌司 | 209 |